

ふらふら

歩いて知っとくれやす

# 先斗町

真面目な話と  
ちよぼ知識



さてさて、善願特集では先斗町の飲食店を  
ご紹介してきましたが、

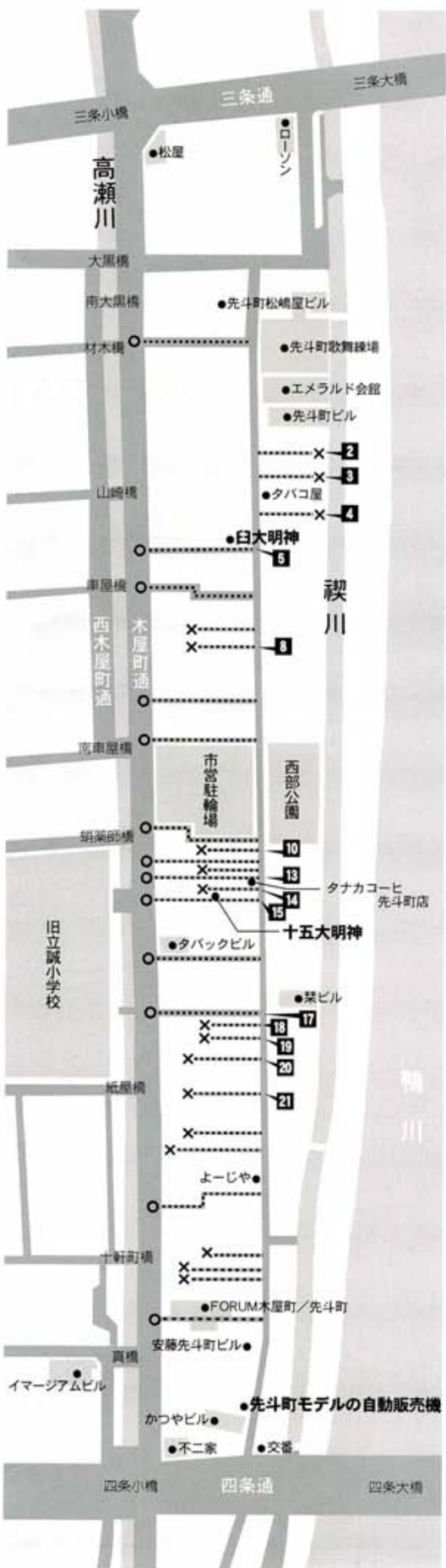
ここではちよっと真面目に

先斗町のお話と知ってソンはなの

ちよぼ知識を御覧あれ。

## 先斗町～木屋町、 ひょうと通り抜け案内

※MAPのに表記されている「○」は通り抜け可能な露地、「×」は通り抜け不可能な露地を記しています。またそこに振ってある番号は通り抜けの可・不可を表す標札のある露地を記しています。



知っ  
とこ  
由来

### これが先斗町通

三条通の一筋南から、四条通まで、全長約500メートル。道幅は約2.5メートル。2002年の大阪法善寺横丁の火災で問題となったように、現在の道路に2メートル程度のセットバックが必要となる現在の建築基準法を満たすものではない。が、石塀小路などともに歴史的街並保存の観点から、特例措置の適用が認められているのだ。

そして、先斗町を風情ある通りにさせているのが石畳。格子柄の石畳は千鳥足になっても、模様に沿って歩けば、真っ直ぐ歩いているような錯覚を起こす、なんてウソのようなホントのお話。



### 先斗町の由来

諸説あるが、「先」や「先端」の意味を持つポルトガル語「ポント」に起因する、という説が最も有名。織田信長時代にこの辺りにポルトガルの教会があり、造成前から「御崎(みさき)」と呼ばれていたこの一帯を、ハイカラ風と呼んだものという。他には、川(皮)と川(皮)の間にあり、ちょうど鼓のようなものなので、その音色から「ポンと丁」と呼ばれるようになった、とする説など、いずれにしても元を辿るとダジャレ的発想の可能性は大。

# 先斗町

真面目な話と  
ちよぼ知識

知っ  
とこ  
歴史



### ちよこっと歴史のお話

先斗町通ができたのは、1670年(寛文10年)のこと。それまでは、四条河原(文字通りの河原)が、現在の河原町通あたりまで拡がっていた。時の幕府は、幾たびも氾濫しては洛中を水害で苦しめていた鴨川護岸工事を敢行。鴨川東岸と西岸に石垣を築き洪水防止をはかったが、このとき西岸の鴨川沿いに造成されたのが、先斗町&先斗町通。つまり、先斗町は埋め立て地がその起源。当時は「新河原町通」と呼ばれていたようだ。

先斗町に最初の家が建ったのは若松町(MAPの西部公園北側付近)のあたりで、1674年(延宝2年)。それから続々と建てられ、30数年後の1712年(正徳2年)には「生州株(いけすかぶ)」が公認され、茶屋、旅館旅館などが軒を連ねるように。これが花街・先斗町の始まりと言われる。

### 五花街のひとつ

先斗町は、言わずと知れた京都五花街のうちのひとつ。もとは高瀬川を往来する船頭や旅客を空いてにした茶屋や旅館から発展した。1712年(正徳2年)に茶屋、旅館茶屋が認可され花街としての歴史が始まる。夕暮れ時には舞妓さんや芸妓さんのお座敷に向かう姿が見られるが、常に多忙な彼女たち、写真撮影は控えましょう。



### 先斗町歌舞練場

1927年(昭和2年)に完成以降、先斗町の舞妓・芸妓による春の催し「鴨川をどり」などが上演されてきた。地上4階、地下1階のコンクリート建築は当時、「東洋趣味を加味した近代建築」と賞賛された。戦後の一時は占領軍に没収され、彼ら相手のピアホールとして使用されていたとか。時代ですね。

# KBS京都 × 京都 CF メディアMIX コラボレート企画

## 読上 な谷 夜口 Tajiri's Night

KBS京都 毎週土曜日  
夜11時30分 絶賛放映中

谷口キヨコ

セレビア〜！谷口キヨコです！  
京都の街はコンチキチンの音で  
にぎわう時期。夏の訪れを感じ  
るね。毎月毎月このコーナーを  
見てくれているアナタ！番組が  
リニューアルして3ヶ月、だんだ  
んセレビアンな節つきになって  
きたんちゃう？金太郎師匠はと  
もかく、谷口は常に京都セレブ  
を目指して頑張ってます！



金太郎

こんばんニャー！どうも、金太郎です。  
先月、谷口がうるさかったのでメガ  
ネを変えてみました。どう？セレビ  
アンやる？このように、もちろん俺  
も京都セレブ目指してるんで、みな  
さん応援よろしく。

デイリーでセレブな情報バラエティー番組  
こんなん放送してます！

タニヨルプレゼンショー  
〜モテる男のカクテルショー〜



モテる男がいると聞いてやってきたのは京都府相  
模郡精華町。彼の名は前本博樹。モテる秘訣はフ  
レアードンダーという職業だった。結婚式な  
どのイベントでひっぱりだこ。華麗に舞い、おい  
しいカクテルを作ってくれるのだからソシャ人気  
者だ。モテたい君、今すぐ男子入りだ！

京都人100人に聞きました！  
〜あなたがよく飲むお酒は？〜



あなたがよく飲むお酒は何？やっぱり！位はビール。  
キンキンに冷やして飲むのがたまらない！そ  
して、今ブーム真っ盛り中の焼酎が安気の2位。健康  
にも、美容にもいい！飲む量も大人気！しかし、食  
べてみると意外にイケる！あなたも新しいセレブ  
ドリンクを思いついたら番組にメールを！

コンビニセレブ  
〜セレビアン料理〜



今回はコンビニで購入できる商品を使ってセレブ  
アンな料理に大奮発させようという企画。用意し  
たのはじゃが〇こ入りサラダとアサリ味噌グラタ  
ン。匂い、色は最高！谷口も不満足。しかし、食  
べてみると意外にイケる！あなたも新しいセレブ  
ドリンクを思いついたら番組にメールを！

番組では谷口キヨコの専用携帯を開説！  
ご意見、ご感想、応援メッセージなど、  
どんどんメールしてください！  
メールアドレス・・・tani-yoru@docomo.ne.jp



誰も知らない  
旦那衆 (おたぬきさん)

大正の始め頃、近くに住  
んでいた若嫁が、臼を足台  
にして格子の拭き掃除をし  
ていたところ、気がふれて  
しまった。臼の裏りを恐れ  
て祀られた臼大明神は、か  
つては隠れキリシタンの秘  
密の祠か、と噂されたこと  
も。そして祠の横には穴が  
あり、そこからおたぬきさ  
んが出入りするとも言わ  
れている。今でも朝には栓が  
され、夜になると遊びに行  
けるようにと、栓が抜かれ  
る。粋な街は、おたぬきさ  
んも遊び入ってわけですね。



西部公園  
またの名を猫公園

先斗町には猫が多く、また  
大切にされているそう。



先斗町モデル？

「先斗町」と男気たっぷりに  
記された真っ黒な自動販売機  
は、景観に配慮しているのだ  
ろう。でも結構目立ってたり  
するのは気のせいかな？



どんつきろおじと  
ぬけろおじ

先斗町には木屋町に抜け  
る露地 (ろおじ) がいくつ  
もある。ご親切にも「通り  
抜けできます」「通り抜け  
できません」を表示している。  
幕末にはこのあたりに志士  
たちが隠れ住んでいたとも  
言われ、勤皇と佐幕に分か  
れて抗争した志士たちが、  
追われてこの露地に身を潜  
めたり待ち伏せしたりした  
ところ。露地に番号をつけ  
たのは木戸孝允率いる長州  
藩だという。こんなところ  
にも幕末のかほりが。



マナー  
守ってますか？

先斗町の風情を守るためにも  
当然ですが、自転車・バイク  
は通行禁止です。もちろん歩  
きタバコも止めましょう。



鴨川千鳥

これが  
先斗町の顔

鴨川の冬を情緒づける千  
鳥をかたどった愛らしい紋  
章。1872年 (明治5年) に初  
めて鴨川をどりが開催され  
た際に、創案された。現在  
はその姿を鴨川で見ること  
は出来ないが、店の軒先の  
提灯や、露地の通り抜けの  
可・不可を表すの標札など  
に描かれ、先斗町を象徴す  
るマークとして親しまれる。



露地に潜む  
ハイテク大明神！

15番路地には、お詣りに  
と「おおきに、おおきに」  
と応えてくれる大明神さん  
が祀られている。1978年 (昭  
和53年) に先斗町で火事が  
あったときに、この15番路  
地で火が鎮まり、当時ここ  
にあった居酒屋の、信楽焼の  
おたぬきさんのおかげ、とい  
うことでそのおタヌキさんを  
祀ったもの。千社札 (せんじ  
ゃふだ) がびっしりと貼ら  
れている。お賽銭を入ると、流  
暢な京ことばで該当するおみ  
くじの内容を読み上げてくれ  
るそう。なぜに若干のハイテ  
クさを身につけたのか。理由  
は不明。

# 表とは題して めましたかい

こしばらく、反響や要望も多く、また鴨漕保勝会（鴨川納涼床の組合）のご協力を得ることができるようになったこともあり、夏場の特集では川床をご紹介してきた。一昨年の8月号では「例えばこんな、川床の物語」、昨年の8月号では「イキタイ床、イケル床！」として翌9月号と連載で川床を集めた。特集だけにとどまらず、新しく川床を出す店が増えるたび、季節を問わず各コーナーでご紹介してきた。川床が出る通りは「上木屋町」「先斗町」「西石垣」「下木屋町」と北から南へ続いてゆく。ちょうどその真ん中あたり、先斗町が今年の主役である。しかも、敢えて川床が出ない西側に目を向けた。東側ほど劇的ではないが、西側もある。先斗町の西側を表して「裏」という言葉を使い、取材先各位にも「川床ではない側」という失礼な言い方でご協力を賜り、ご理解も頂戴し

た次第だが、善悪を言うつもりもないことは賢明な読者の皆さまにはご承知いただけるものと思う。さらに各店の「舞台裏」ということで、ドキュメンタリー的な仕上がりを試みたのだが、さて、どのような感想を持たれるだろうか。

いる。その他にも今となってはここでは書けないような、「何ということを書いたものか」と思われる部分もある。もしも当時の号をお手持ちの読者の方がいらっしやれば、紐解いてみていただきたい。何しろ隔世の感である。

をしたと思う。それを「変わってしまった」と思う方もおられよう。では「祇園のようになつた」のか？「木屋町化した」のか？ もしくはどこにも似ていない別の通りになつたのか？ そんなことはない。変わりはしたが、アイデンティティが崩れ去つたわけではない。外側から望まれるイメージと同時に、「こうある」「こうありたい」という街の意志というものもある。祇園には祇園の、木屋町には木屋町の、そして先斗町には先斗町のアイデンティティがある。これも前ページまで少し触れたが、先斗町は京都に5つある花街のひとつであり、本来の風俗として今も花街文化がある。まず基本はそこである。それぞれの街や通りを「成り立たしむるもの」は存在するのだ。だから先斗町は先斗町のままだ。街とは丈夫なものである。

と、諸々ふまえて、今も昔も「先斗町アイデンティティ」を構成するのは一軒一軒の店舗であり、その店舗を営む全ての人たちの思いがその根幹を成す。彼らの思いは様々であるが「単なる飲み屋街ではない」「見てはいけない大人の世界」「閉ざされた暖簾の奥が意外なほど暖かい氣質」「旦那衆が三々五々集つてくる」「見た目は全く別物」……これら全て、今回取材にお伺いした店の方々の言葉である。彼らの声を借りて、問いかけというよりも、本誌の立ち位置として「こうなつて欲しいはない」「こうはならないと信じている」という意志を、同時にお伝えしたい。店外で聞の声をあげるような騒ぎや、石畳の一角を吐瀉物が占めるような光景を、この先斗町で望む人はいるだろうか。まずいるまい。それが花街・先斗町のアイデンティティではないだろうか。

こまでも少し触れたが、本誌が前回、先斗町を集めたのは'98年。ちょうど7年前である。まだ「クラブフェイム」という題号だった頃で、その年の今号と同じ8月号、タイトルは「ふらり先斗町」。サブタイトルは「いまからのメインストリート徹底取材・情緒たっぷり便利な床情報・イラストマップ付き」であった。思えばストレートなタイトルである。

当時の巻頭の前稿を再読した。「木屋町以上、祇園未満」、砕いて言えば「祇園ほど緊張しなくていい」「木屋町ほどおっかない」と紹介して

街は移ろうものである。恐らく明治の京都と平成の京都ではずいぶん様子も違うだろう。わずか7年の間にも、この先斗町も少々様変わり

間にも、この先斗町も少々様変わり

間にも、この先斗町も少々様変わり

間にも、この先斗町も少々様変わり

間にも、この先斗町も少々様変わり

間にも、この先斗町も少々様変わり

間にも、この先斗町も少々様変わり

間にも、この先斗町も少々様変わり